

校長室の窓から

尼崎市立武庫東中学校 NO.19

平成24年 2月20日

校長 小谷 豪 郎

校訓：命を大切にしよう

昨年の入学式では、東日本大震災の直後でもあり、被害に遭われた多くの方々への哀悼の思いも込め「命を大切にする」というお話をしました。

そして、この1年間は、本校の校訓の第一番目にある「いのちを大切にしよう」ということを改めて考えてほしくて、始業式や終業式など折にふれ話してきました。また、卒業を控えて先月には助産師さんを招き、直接命に関わるお仕事をされている方からの生のお声を聞かせていただきました。

今回は、3年生にとっては最後の機会になりますので、先生が読んだ本の中から次の文章（遺書）を紹介します。これは、「国民の遺書」という本にまとめられたものですが、実際には靖国神社に奉納されている『英霊の言乃葉』に残された文章です。

母上様に告ぐ

お母さん、首里の都もとうとう戦^{いくさ}の庭と化しまして、自分等も鉄血勤皇隊として軍服姿に身を固め、英米撃滅に邁進したのであります。

沖縄の戦場も、何時かは勝ち戦の時期がくるのですから、母上様には御體を^{おからだ}大切にされまして、勝ち戦を待っていて下さい。

自分のことは、如何なる時にも御心配しないで下さい。そして、小生を御國の為に働かして下さい。自分も良き死に場所を見つけて、御國に御奉公するつもりです。

お母さん、自分の働きぶりを見て下さい。

九段の御社で、母上様さようなら。

散るべきときに散ってこそ

男と生まれし甲斐はありけり。



これは、第二次世界大戦で最後の戦場となった沖縄で、鉄血勤皇隊として徴用され戦死した陸軍上等兵、「豊里陳雄」という、当時、沖縄県立第一中学校3年生、15歳の遺書です。

地震や津波といった自然災害とは全く異なった状況ですが、この日本で、君たちと同じ中学生が学校を卒業することもできずに、軍人として戦わなければならなかったこと。さらには、入隊した最初から死ぬことを覚悟して遺書を書いて戦いに臨まなければならなかったこと。『散るべきときに散ってこそ、男と生まれし甲斐はありけり』

と覚悟はしていたとしても、誰も本心で死ぬことを喜んではいなかったと思います。同じ年頃の中学生としてどのように感じますか。特にこのような手紙を残された父母・家族はどのような思いだったのでしょうか。

残念なことに、この地球上のどこかで、今日も戦争状態の国があります。現在の平和な日本を守り続けること、このことも君たちの大切な使命です。

現在、学校では、1. 17や3. 11の大きな災害を教訓にして、「人は支え合い共に生きる」ということ、「絆」の大切さや「命の大切さ」等をまとめて「命の教育」として様々な活動に取り組んでいます。1月には地震と津波に対する防災訓練を実施し、その際の講評でも言いましたが、訓練だからといって走らない、友達とおしゃべりをしながら移動する、このような態度ではいざというときに効果がありません。

阪神淡路大震災で被害を受けた被災地に生まれ育った者として、過去の出来事を知る、そしてそれを真摯に受け止め正しく理解し次の世代へと伝えて行く、そういった役割を果たす義務があると思います。その中で自分の命を大切にすることはもちろん他人の命も大切に、周囲の人と支え合い共に生きる、絆を大切に、常に何事にも真剣であること、今を精一杯、一生懸命生きるそういう努力を惜しまない人でいてほしいと思います。

高校受験 速報!

2月の10日(金)・11日(土)の私立高校受験に始まり、13日の公立高校推薦・特色選抜と連続して高校入試がありました。

3年生在籍217名中、私立高校へは、専願・併願を合わせて172名が受験しました。結果は、受験者172名全員が合格という素晴らしい結果になりました。併願で受験した生徒たちはこれを弾みにして、本命の公立高校受験へ向けて残り少ない日々ですが、充実した時間を過ごして下さい。

一方、公立高校の推薦・特色選抜には、59名が受検し先週の17日金曜日に発表がありました。結果は、32名が合格しました。今回、残念な結果だった人たちは、私立を併願で受験した人たちと同じ、3月12日の一般受検で最後の力を振り絞って目標に向かって頑張ってください。



今後の主な予定

2月24日(金) 3年生卒業テスト

2月29日(水)～3月2日(金) 1・2年生期末テスト

3月 9日(金) 第34回卒業証書授与式

3月11日(日) 武庫之荘水と緑のまちづくり・防災助け合い訓練(生津公園)

3月12日(月) 兵庫県公立高等学校入学者選抜学力検査